

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 東山開晴館

(9年生)教科に関する調査の結果

実施日：令和7年4月17日

実施教科：教科に関する調査問題（国語科・数学科・理科）

対象：9年生徒



国語科より

- ・自分の考えを分かりやすく伝える力がついています。
- ・根拠を明確にして書く力に課題があります。

強み

「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」という問題では、正答率が全国平均を上回りました。

課題

言葉の特徴や使い方に関する事項では、自校の他の問題の正答率と比べて、漢字の書き取りの正答率がやや低い結果でした。基礎基本の定着という観点で課題であるといえます。また、思考・判断・表現の観点では、文章の構成や展開について根拠を明確にして考えたり、自分の考えを根拠に基づいて書いたりする問題の正答率が低い結果となりました。どちらも記述式の問題であり、根拠に基づいて簡潔に表現する力に課題があることが分かります。

今後について

「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」という問題で高い正答率を示したのは、普段の授業で読み手や聞き手を意識した文章を書く活動や、東山探究での発信力を重視した取組が要因と考えられます。一方で、「文章の内容を根拠に基づいて簡潔に表現する」という問題では、要点を整理し自分の言葉でまとめる力や、論理的に文章を組み立てる力に課題が見られました。今後は、授業で「根拠を示して答える活動」や「要点を簡潔にまとめる練習」を継続し、文章構成や推敲力を育てるための見直し活動を充実させます。さらに、ペアやグループでの言語活動を通じ、論理的な文章を表現する力の向上を図ります。

数学科より

- ・データの活用領域、関数領域で基本的な知識が理解できています。
- ・数と式領域で、「目的に応じて式を変形し、説明する力」に課題があります。

強み

データの活用領域では「必ず起こる事柄の確率を理解しているか」を問う問題、関数領域では「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるか」を問う問題で、自校の他の問題の正答率と比べて高い結果となりました。これらの問題は、必ず起こる事柄の確率の意味、座標の意味が理解できているかを問う問題です。このことから、データの活用、関数領域で基本的な言葉や概念の理解ができていることがうかがえます。

課題

図形領域で、「多角形の外角の意味を理解しているかどうか」をみる問題で、全国平均と比べて正答率が低い結果となりました。また、数と式領域において、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうか」を見る問題で、全国平均と比べて低い正答率でした。

今後について

領域によって数学的な用語の理解に差があることが分かりました。これらの用語は、図形の性質を考察したり、数量の変化を調べたりする際に不可欠です。今後は、生徒が説明や問題解決の場面で用語を正しく使う機会を増やします。また、数と式領域では、式の変形や意味を理解し、事柄が成り立つ理由を説明する力が課題です。改善のため、文字の使い方や式の変形を理解する活動を充実させ、反復練習で定着を図ります。さらに、ペアやグループでの話し合い活動等、言語活動を取り入れ、論理的な説明力を育てていきます。

理科より

- ・「根拠をもとに考え、説明する力」が育っています。
- ・「実験結果を比較し考察する力」に課題があります。

強み

特に課題設定、生活と関連付けたふり返り、仮説にもとづく結果の予想などの問題で高い正答率を示しました。その理由として、普段の授業で問いを立てる活動や、生活場面と結びつけて考える学習、観察・実験の見通しをもつ指導が定着していると考えられます。

課題

「考察を確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題」の正答率が自校の他の問題と比べて低くなりました。音の高さとオシロスコープの波形との関係がわからず、正答率が下がった可能性が考えられます。また、「ボーリング地点の結果がどのようなか判断し、モデルで示す問題」についても正答率が低い結果となりました。これは、地層のつながりを問題文から読み取れなかったことが原因と考えられます。

今後について

今回の結果から、実験結果を比較し、根拠を示して考察する力が不足していることが課題として見られました。今後は、授業で実験や観察の場面を増やし、複数の資料や結果を比較しながら、「なぜそうなるのか」を説明する活動を取り入れます。また、条件を変える／変えないなど、対照実験の考え方を意識した課題を扱い、科学的な思考力・表現力を育てます。さらに、振動数や波形などの理科用語を正しく理解し使う場面を多く設け、概念の定着を図ります。こうした取り組みを通じて、実験を科学的に捉え、根拠に基づいて説明する力を高めていきたいと考えています。

保護者のみなさまへのお願い ～質問紙より～

質問紙の結果から、本校の生徒は ICT 活用に自信をもっていることが分かりました。ICT 機器を使って情報を整理したり、プレゼンテーション（発表スライド）を作成したりする項目で、「とてもそう思う」と答えた割合が全国より 6 ポイント高い結果でした。これは、授業で ICT を活用した学習が定着していると考えられます。また、「朝食を毎日食べていますか」で「あまりしていない」「全くしていない」と答えた生徒は 16.9%で全国平均より高く、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では「している」「どちらかといえば、している」が全国平均より 5 ポイント低い結果でした。傾向として、夜遅くまでスマホ等を使用し、就寝時間が遅くなることで起床が遅れ、朝食を取れない状況が考えられます。学校でもスケジュール帳の活用などで生活習慣改善に取り組んでいますが、ご家庭でもご協力をお願いします。